

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
日常生活活動学演習	OSP33-007	必修	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
榎田 哲弥	C308	t.enokida	火曜日 16:20~18:00		
授業の目的・概要	対象者がどのように日常生活と関われば QOL を高めることになるのか考えることは重要である。本科目の目的は、①日常生活活動を評価する観点を身につけること、②日常生活活動の評価結果を対象者の状態・状況に即して解釈すること、③対象者の症状・障害に応じた日常生活活動への介入方法を示すことである。これら 3 点それぞれについて講義した後、グループワーク等によって学生が主体となった検討・発表を行ってもらう。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	授業内容に関する質問は授業中及びオフィスアワーの時間に受け付けている。疑問や不明な点は早期の解決に努め、授業の進み方に合わせて理解を深めてほしい。				
教科書	①標準作業療法学専門分野 日常生活活動・社会生活行為学 第2版/編:濱口豊太/医学書院/2022年 ②脳卒中の機能評価-SIAS と FIM[基礎編]/編著:千野直一 他/金原出版/2012年 【2冊指定】				
参考書	特になし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	日常生活活動を評価する各種の評価手段について意義・目的を説明することができる。			OT (1)、(2)	
②	対象者の症状・障害に応じた日常生活活動評価の項目を挙げることができる。			OT (2)	
③	日常生活活動に係る基本的な評価を実施することができる。			OT (2)	
④	日常生活活動評価の結果を、対象者の状況・状態に即して解釈することができる。			OT (1)、(2)、(3)	
⑤	対象者の日常生活活動上の問題に対して、適切な介入方法を示すことができる。			OT (2)、(3)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション グループ課題について ほか	講義	教科書①、②の該当箇所を読んで予習する。 講義内容に沿って教科書①、②と配布資料でポイントを確認する。 提示された発表課題に取り組み、9回目以降での発表に備える。 発表内容に沿ったテーマについて教科書の該当箇所やその他の文献を読み予習する。 発表内容に関して、配布資料やその他の文献も参考にしてポイントを確認する。 発表に向けた準備をする。 これまでの学習内容を復習する。		
2	[疾患・障害別の日常生活活動支援①] 脳血管疾患	講義、演習			
3	[疾患・障害別の日常生活活動支援②] 脊髄損傷①	講義、演習			
4	[疾患・障害別の日常生活活動支援③] 脊髄損傷②	講義、演習			
5	[グループ課題 中間報告会] 各グループの発表、質疑応答、討論	発表、討論			
6	[疾患・障害別の日常生活活動支援⑤] 呼吸器疾患	講義、GW、演習			
7	[疾患・障害別の日常生活活動支援⑤] 整形疾患 (THA ほか)	講義、GW、演習			
8	[疾患・障害別の日常生活活動支援⑤] パーキンソン病	講義、GW、演習			
9	[疾患・障害別の日常生活活動支援④] 関節リウマチ	講義、発表、討論			
10	[グループ発表①] 脳血管疾患患者の ADL 評価・支援	発表、討論			
11	[グループ発表②] 高次脳機能障害患者の ADL 評価・支援	発表、討論			
12	[グループ発表③] 脊髄損傷、関節リウマチ患者の ADL 評価・支援	発表、討論			
13	[グループ発表④] パーキンソン病、脊髄小脳変性症患者の ADL 評価・支援	発表、討論			
14	[グループ発表⑤] ALS、アルツハイマー型認知症患者の ADL 評価・支援	発表、討論			
15	[疾患・障害別の日常生活活動支援⑤] 統合失調症患者の ADL 評価・支援。これまでの総括、補足。	講義			
試	定期試験 達成度評価、評価のポイントを参照				

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		70	0	30	0	0	100	
総合力指標	知識・技術力	30	0	5	0	0	35	
	思考・推論・創造する力	20	0	10	0	0	30	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	
	問題を発見・解決する力	20	0	10	0	0	30	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	授業で学んだ教科書、資料、口頭説明、グループ発表等の内容に基づいた内容が出題され、それぞれについてどの程度理解できているかが主に問われる。[配点]期末試験:70点				全体に向けた講評を Teams 上で行い、必要に応じてリモート等で個別に振り返りを行う。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①	✓	提示されたテーマについて、どんな評価を行い、日常生活活動上の問題点を挙げ、その問題に対する具体的な介入方法を示してもらう。積極的に文献にもあたり、明確な根拠を示すことを心掛けてほしい。グループ発表となるが、個々の役割や成果も重視するため、能動的に行動することが求められる。				発表準備時や発表後に意見交換とフィードバックを行う。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	なし							
教員の実務経験	担当する教員は、作業療法士として 10 年以上の臨床経験を有する。							
実践的授業の内容	臨床で得た知見も取り入れて、日常生活活動に関わる作業療法の基本的事項について教授する。							
そ の 他	大学構内での受講に際して、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性はある。							